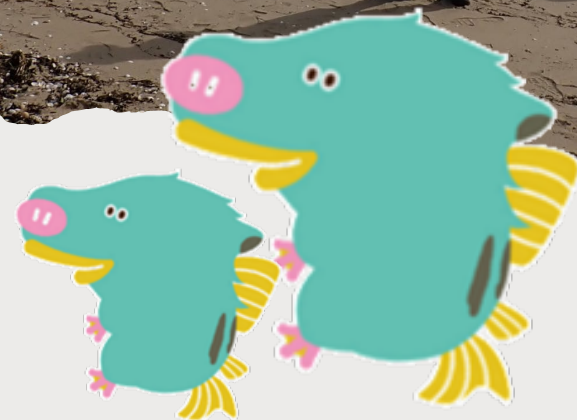




矢作川流域圏懇談会 全体会議 中間報告会

2023年11月13日（月）



会議に参加される皆さまへお願い

下記の事項に留意してご参加ください

①本会議は対面・WEBハイブリッド会議です

- ・ 会議の開始・終了時刻を守りましょう。
- ・ 意見交換のタイミング以外は、事務局、各座長のみの発言に限ります。

②意見交換時

- ・ 対面参加の方は、挙手をお願いします。
- ・ WEB会議システムには、「挙手（手を上げる）」機能が搭載されています。意見のある方は、挙手ボタンを押してください。事務局もしくは座長が指名するまで、発言は控えるようお願いします。
- ・ 多くの参加者が発言できるよう、発言時間は長くないようにしましょう。
- ・ お互いの意見をよく聞き、それぞれの発言を尊重しましょう。
- ・ 「チャット」機能を活用し建設的な議論を行いましょう。ただし、私語や談論は慎んでください。

※マナーを守って参加してください。

遵守出来ない場合は退出していただくことがあります

中間報告会の次第

1. 開 会

2. 全体会議座長 あいさつ

3. 矢作川流域圏懇談会とは（設立要旨・規約・情報公開）

4. 各部会の当初目標と活動実績

- （1）市民部会 ・ 地域部会
- （2）各座長からの補足
- （3）意見交換

5. 第13回の全体会議に向けての展望

- （1）市民部会 ・ 地域部会
- （2）各座長からの補足
- （3）意見交換

6. その他

- （1）河川整備計画との関わりに関する今後のとりまとめについて
- （2）諸連絡

7. 全体会議座長 講評

8. 閉 会

3. 矢作川流域圏懇談会とは

資料1 「矢作川流域圏懇談会」について をご参照ください

①懇談会設立の背景

- ・矢作川水系河川整備計画（治水・利水・環境・土砂管理・維持管理・・・）の中に、民・学・官の連携・協働による取り組みが明記された。
- ・懇談会を設立することで、流域内の各組織のネットワーク化、河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る。

②設立要旨・規約

- ・平成22年8月28日制定→平成30年4月1日改定のもの

③矢作川流域圏懇談会の情報公開

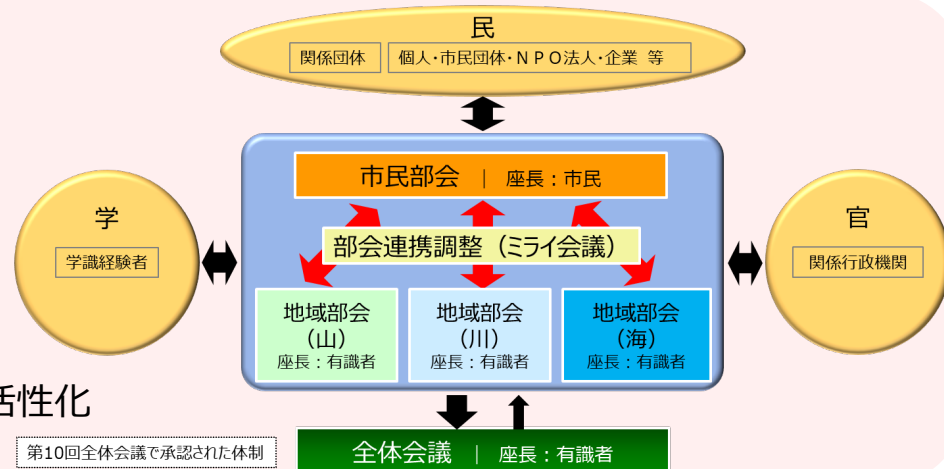
- ・原則として「公開」（個人のプライバシーに関する議事は「非公開」）

矢作川流域圏のあり方を検討する視点

“流域は一つ、運命共同体”

113組織 374名が登録 (R5.1時点)

- ①流域圏住民・関係者の連携強化
- ②流域圏住民の啓発活動
- ③行政と住民が連携した調査・研究の充実
- ④河川を中心とした流域の社会基盤形成及び地域の活性化



3. 矢作川流域圏懇談会とは

【懇談会の目的・運営方針】

懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

懇談会の運営方針

(1) 市民部会の活動の活発化

- 組織のあり方を見直し、市民部会主体のイベント、勉強会の計画を行う。

(2) 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流

- 流域の課題解決に向けた具体的な行動を積極的に行う。
- 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。

(3) 河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) 当初目標

【令和5年度の当初目標】

市民部会と地域部会（山・川・海）の取り組み

- これまでの各部会の活動成果を明瞭化することで、目標を明らかにしていく

部会	令和5年の当初目標
市民	① 流域全体に関わる課題をテーマとして設定し、公開講座を実施する。 ② 地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。 ③ 農業従事者や大学関係者など、新たなつながりを広げる。
山	① 次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマ（山村ミーティングと森づくりガイドラインは協働）を軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。
川	① 流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。
海	① 「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -1 市民部会

令和5年・6年の活動目標

- ①流域全体に関わる課題をテーマとして設定し、公開講座を実施する。
- ②地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。
- ③農業従事者や大学関係者など、新たなつながりを広げる。

今後の市民部会の課題・役割

- 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
- 市民部会としての流域連携テーマの議論
- 地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築
- 10年間で新たに見えてきた課題や問題の明確化
- 懇談会とつながりの薄い農業や工業の団体との関係構築

山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる
～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

矢作川の恵み・大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指し、平成30年度のWGで作成しました。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -1 市民部会

<1> 今年度の活動実施状況と今後の予定

活動実施状況（参加者数）		日時	場所
5月	第15回W G（16名）	5月22日（月）	・ 豊田商工会議所
7月	第16回W G（14名）	7月11日（火）	・ 豊田市崇化館交流館
9月	第17回W G（17名）	9月8日（金）	・ 豊田市崇化館交流館

今後の活動予定		日時	場所
R6年 1月活動	第18回W G（年度まとめ）	1月	未定
4月活動	第19回W G	5月	未定
5月活動	第20回W G	7月	未定
9月活動	市民部会まとめの会	9月	未定

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -1 市民部会

＜2＞公開講座の実施に向けた計画・準備 (テーマ①)

○流域全体に関わる課題（テーマ）について、これまでの実施状況を下記に示す。

時期	テーマ	実施状況
令和3年7月	マイクロプラスチック	市民部会企画で公開講座を開催 「プラスチックが生き物を苦しめている」
令和3年11月	ネオニコチノイド系農薬	市民部会企画で公開講座を開催 「アカトンボが危ない！」
令和4年8月	「三河湾の水産資源」 「栄養循環・物質循環」	市民部会提案→海部会企画で公開講座を開催 「豊かな海の栄養源～きれいな海は豊かな海か？～」
令和5年1月	「47災害から50年」	市民部会提案→山部会企画で情報共有を実施
令和6年2月	農業と環境	令和6年2月12日開催に向けて計画・準備段階

○流域圏が生業の場である「農業」に関して、有機農業や持続可能な農業などの取り組みについて情報共有を行い、公開講座の内容について意見交換を行った。

○一方で「流域」の概念を市民に伝えることが市民部会が開催する公開講座の役割として重要であるという議論から、俯瞰的に捉えた流域の解説を公開講座で行うこととなった。

○公開講座のシナリオとして、以下の3部構成の方針で調整を進めている。

- I. 水－森－土など流域の構成要素のつながりや、人との関わりについての著書を書かれた富山和子氏の理論の説明（事務局より）
- II. イメージが難しい「流域思考」を伝えていくための試論
（NPO法人 泉京・垂井 理事 神田浩史氏を講師として招待）
- III. ディスカッション
（誰でも参加可能な車座形式での議論の場を用意）

○公開講座は2/12（月・祝）の午後、豊田市産業文化センターでの開催を予定している。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -1 市民部会

＜3＞ 地域部会合同でのバスツアー (テーマ②)

- 地域部会間の共通認識の隔たりを補完することを目的として、他部会に紹介したい矢作川流域の団体や場所を巡るバスツアーを開催した。
- 9/13,14 の2日間で延べ32人が参加した。
- アンケートの回答者全員が「所属外の部会で中心命題としている矢作川流域の課題を『知ることができた』もしくは『少し知ることができた』」と回答した。

【アンケートの内容を一部紹介】

- ・山、川、海それぞれに課題があり、全体の協力が必要だと感じた。
- ・他部会員との議論が良かった。
- ・バス移動中の各座長から解説や見解、現地での質疑応答は課題を知る・考える糸口となった。
- ・ツアーで感じたこと、考えたことについて、意見交換の場が欲しい。



バスツアー訪問先位置図



東幡豆海岸にて

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -1 市民部会

＜4＞ 新たなつながり (テーマ③)

- ・ オーガニック給食の推進に関する取り組みを実施しているFood for Children愛知 Food for Children安城の関係者へ取材を行った。
- ・ バスツアーには、大学生2名（愛知工業大学、三重大学）が参加した。
- ・ 流域連携イベントとして、下記3つのイベントに参加した。

イベント	日 時	場 所
2023年矢作川感謝祭	9月10日（日）	千石公園（豊田大橋下）
第25回“いい川”・“いい川づくり” ワークショップ in東北	9月29日（金）	エクスカーション：四ツ谷用水 （仙台市 広瀬川）
	9月30日（土）	公開選考会：東北大学
	10月1日（日）	青葉山キャンパス
第10回三河湾大感謝祭	10月14日（土）	LaLaGran（三河田原駅）



矢作川感謝祭の様子



いい川づくりWS
エクスカーションの様子



いい川づくりWS
公開選考会の様子



三河湾大感謝祭の様子

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

令和5年・6年の活動目標

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマ（山村ミーティングと森づくりガイドラインは協働）を軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

テーマ別の活動目標

①流域圏担い手づくり事例集

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅴ」を刊行する。
- ・山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目して取材を行う。
- ・特に、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった幸田町における団体を取材する。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
- ・事例集交流会を開催する。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

②山村ミーティング

- ・山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する（担い手の創出）。
- ・3年前までの矢作川感謝祭では、流域の森林組合員の参加が定着傾向にあった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年度はイベント自体が中止となった。今後は、このイベントが林業関係者の交流の場として、どのような役割を果たすのか、開催を支援しながら再検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

- ・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

②山村ミーティングと③森づくりガイドラインの協働（矢作川流域山づくりガイドブック策定）

- ・流域4森林組合の現場森林技能者育成と現行施業ガイドラインについてのヒヤリングを進める
- ・豊田森林組合で取り組まれている現場森林技能者育成トレーナー養成の実際の研修を4組合の現場技能者＋事務方で共有する。
- ・ヒヤリング結果と豊田森組トレーナー研修の感想から、流域全体の人材育成と山づくりガイドブック策定について検討する。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

④木づかいガイドライン (1)

【木づかいガイドラインの作成】

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。

【「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の製作とその理念と製作方法を普及】

- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い出を込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

④木づかいガイドライン (2)

【木づかいと森林アクティブ系・癒し系プログラムによる市民創造型プロジェクトの実施】

- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって、身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。
- ・神奈川県山北町において開催された「大人の木育」の講師を務めた流域連携から、現在南都留森林組合との連携事業がスタートした。今後、道志村のキャンプ施設を対象とした森林づくりワーク及び木のアイテムによるプレイスメイキングを進めていく。

【矢作川流域の活動拠点の木質化の事例収集と支援】

- ・学童保育、森の幼稚園、里山等で森づくりワークを進めていくにあたり、それらの活動拠点施設及びトイレが必要である。愛知県の学童施設に愛知県産材のスギ材が「板倉構法」として使われており、こうした事例を参考に矢作川流域材を活動拠点及びトイレ等の施設に活用していく。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

<1> 今年度の活動実施状況と今後の予定

活動実施状況（参加者数）		日時	場所
5月 豊田市	第66回W G（16名）	5月19日（金）	・つくラッセル（旧築羽小学校）
	フィールドワーク①（20名）	5月20日（土）	・小原交流館 ・市場城跡
7月 根羽村	第67回W G（22名）	7月28日（金）	・老人福祉センターしゃくなげ
	フィールドワーク②（22名）	7月29日（土）	・Jクレジット対象林 ・里山展望デッキ ・村民活動拠点くりや ・コウヨウザン植栽地
9月 恵那市	第68回W G（22名）	9月15日（金）	・上矢作コミュニティセンター
	フィールドワーク③（11名）	9月16日（土）	・上矢作養蜂場

今後の活動予定		日時	場所
R6年 2月活動	第69回W G・FW （年度まとめ）	2月2日、3日予定	岡崎市
5月活動	第70回W G・FW	5月	未定
7月活動	第71回W G・FW	7月	未定
9月活動	山部会まとめの会・FW	9月	未定

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

<2> 流域圏担い手づくり事例集 (テーマ①)

○流域圏担い手づくり事例手交流会2023の実施

2021～22年度に2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を発行し、流域圏の木材を利用して都市域の自治的なまちづくりを促進した活動を紹介。5/19に開催した交流会では2冊の事例集の取材対象者に活動をご発表頂き、33名の参加がありました。

●流域圏での人の繋がりが生まれている

鈴木健一さん (森と子ども未来会議)

・地域の森から学童保育所を木造化 街に森を作るPJ・

プレハブが多い学童保育施設の住み心地をよくするため、木造の板倉建築で着工。今年は10棟目の着工を開始。施設の木造化により、室内が快適になったと好評を頂いている。



東海林修さん (東海林建設設計事務所)

・学童保育施設の木造化の取り組み・

歴史的建造物に用いられている、板倉構法に関わる。木造の施設は子供にやさしいほか、木の生産者と町のつながりを感じることができると、今後に関りを広げていく活動を行いたい。



小嶋哲志さん (あおぞら学童保育クラブ)

・「木の家プロジェクト」について・

学童施設が木造化されることにより、音、温度、湿度などの環境が整い、多くの子供と一緒に過ごせるようになった。また、近隣の方々が集まるようになり、保育所は地域コミュニティという役割も持つようになった。



名畑恵さん (錦二丁目エリアマネジメント株式会社)

・都市の木質化を中心とした錦二丁目のまちづくり・

まち全体が木で覆われているような「まちの美しさ：都市の木質化」を構想の大切な柱として、錦二丁目の街づくり事業を行う。現在は木質化を暮らしの歳時記のように続ける仕組みづくりを作成中。



大橋俊夫さん (再生空間合同会社)

・錦二丁目での取り組み-都市の木質化プロジェクト-

都市の木質化で、錦二丁目に設置されるベンチや棚や机などの制作、指導を行う。歩行環境を改善するため長者通りに作ったウッドテラスが角材やデッキやベンチに再利用され、木材はリユースしやすい素材だと感じる。



山田政和さん (豊田森林組合)

・都市の木質化に関わって考え方が変わったこと・

2013あいちトリエンナーレで長者町のビジターセンターを豊田の木で内装したのがきっかけで、都市の木質化に関わる。最近ではグリーンクラフトを始め、異業種との関わりが増えたことで自身の技術や視野の幅が広がった。



4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

<3> 山村ミーティング・森づくりガイドライン (テーマ②、テーマ③)

○講演会「森林ボランティアの安全管理は甘すぎないか？」の実施

森林ボランティアの活動においては、ここ2・3年、死亡事故や重大事故が激増している。そのため、水野雅夫氏（Woodsmen Workshop代表）を講師に招き、森林ボランティア作業における安全管理についての講演会を実施した。

○矢作川水源の森づくり合同研修会の実施

林業従事者の安全のため、7月14日に4森林組合（根羽村、恵南、岡崎、豊田）による合同研修会を実施。

豊田森林組合は、人材育成について中期経営計画にも入れ込み、職員に2年間専門教育を受けさせるといった方法を取り入れており、これらの取り組みについて講演頂いた。

また、伐倒練習機（MTW-01）を使った実践的な訓練方法を実演され、どのようにトレーナーが指導法をマスターしていくのか、その成果と課題の共有を行った。

● 林業組合間での連携が生まれている



4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

<4> 森づくりガイドライン (テーマ③)

○流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援（各市町村の活動報告）

豊田市の取り組み

第4次豊田市森づくり基本計画の見直しについて紹介された。

ポイントとしては、林業路網の維持管理コストの低減や、作業員の安全教育強化などを明確に位置付けている。取り組みの方針としては、＜公益的機能が発揮される森づくり＞ ＜木材の循環利用を進める森づくり＞ ＜地域づくりと一体となった森づくり＞ ＜人材育成と共働による森づくり＞ としている。

岡崎市の取り組み

岡崎市の建築物等の木材利用の促進に関する基本方針（案）の変更に関する情報共有を行った。本変更は、愛知県が策定した木材利用促進に関する基本方針（令和4年4月）に基づくものであり、これまで明記されていた「公共建築物」⇒「建築物」、「地元産木材」⇒「市産材」等に変更するなど、より幅広い対象物に、詳細な定義を加えた。

恵那市の取り組み

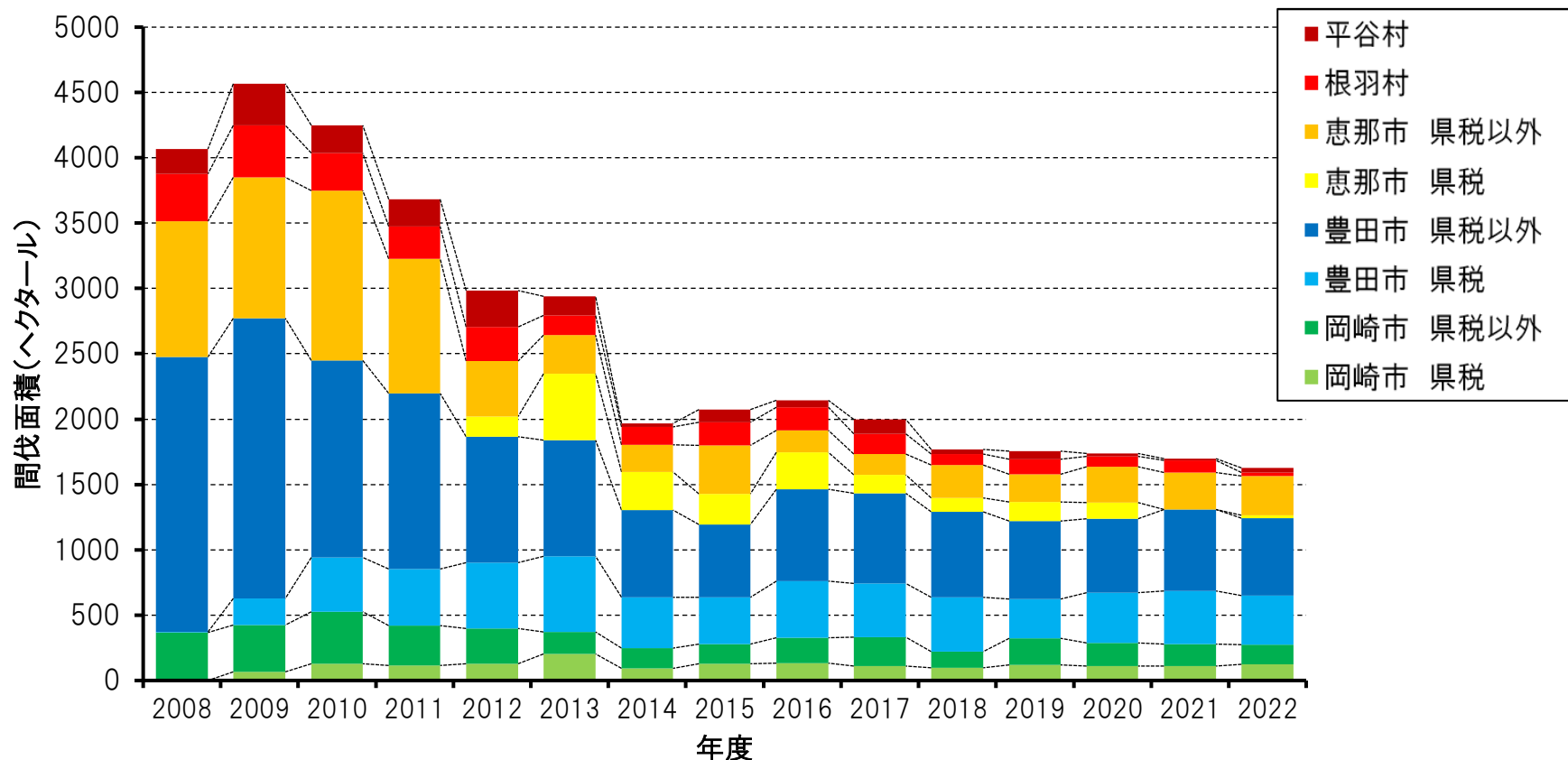
「えなの森林づくり実施計画」を柱とし、＜森林資源の活用を進めるための取り組み＞ ＜森林の多面的機能を守るための取り組み＞ ＜森林を支える人、地域を育てる取り組み＞ ＜森林づくりを実現するのに必要な地域の枠組みを構築する取り組み＞ を実施。

● 森づくりガイドラインでの取り組みを通じて、自治体間での交流が生まれている。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

＜4＞ 森づくりガイドライン (テーマ③)

○矢作川流域圏での人工林間伐の状況



2009年から2014年の間に大きく減少しており、それ以降は2000ha前後で横ばい傾向。
2022年は傾向、間伐面積ともに前年と比較して大きな変化はない。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

<5> 木づかいガイドライン (テーマ④)

○竹の土木資材への活用事例紹介

南信州の事例が報告された。南信州においても放置竹林の問題が生じている。山部会では筏の材料やメンマといった食材への利用については共有してきた。今回は、盛土に竹を用いることで強度を補完でき、より急こう配でも盛土が耐えられる事例が紹介された。

○獣害対策の活動紹介

獣害対策として各種単木防護柵を実施したが、全てシカによる食害を受けた。皆伐して再造林の段階に入ったが、獣害対策が大きなハードルになっている。対策として周囲防護柵の設置や植栽地パトロールの実施を検討している。

○木育推進事業

- ・南都留森林組合と連携し、端材を使った空き家「ネバスギを使ったシェアハウス」の改装に取り組んでいる。
- ・高知県梶原町の太郎川公園森林フェスティバル、山梨県甲府市の水源の森からマルシェ、山梨県のコッコ祭りに出向き、木育活動を行った。
- ・「青い空とビーチサウナ」として、「NEBA SAUNA」の特徴を紹介した。
- ・安城市と根羽村の親子山村留学をきっかけとし、太田氏の「森へおいでよ 矢作川水源の森へ」を紹介。
- ・根羽スギを使った建築物として、長野IC近くにある「おやきファーム」を紹介した。

○根羽村・林業のミライ合宿活動紹介

根羽村での移住と林業の体験活動を実施。サポーターのほか、学生13名が参加。「木材がどうやって作られ、どのように使われるのか」「林業と山村地域の関わりについて」などをFWを交えて学ぶことで、地域や林業の理解が深まったほか、地域と学生につながりが出来た。

●上流地域と他地域の住民に繋がりが生まれている

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

<6> フィールドワーク (5月 小原地区 地域活性化の取り組み視察)

豊田市小原地区で進められている、地域ブランディング活動「三河里旅（みかわさとたび）」の活動フィールドを見学しました。上流域に下流域の人々を呼び込む活動は、“流域を繋ぐ”という矢作川流域圏の取り組みの上でも重要となります。

○ 三河里旅の活動紹介

・現地見学の前に、会議室で三河里旅についてご説明いただきました。三河里旅は旧小原村を拠点とし、地元の方に案内いただく三河の里山の**ディープなローカルツアー**を紹介しています。



屋内での公演風景



山城解説の様子



敵兵を迎え撃つ城壁と地形の解説

○ ローカルツアー体験「知ると楽しい 山城を知ろうツアー！」

・様々なツアーのうち、小原地区の山城をめぐるツアーをご案内していただきました。**小原地区にある市場城**をふもとから歩いて登り、「攻め込んでくる敵を一網打尽にするための切り立った通路」など、戦の時に重要な場所などのレクチャーをしていただきました。

○ 地域の情報発信「おばらのじかん」

・小原地区では、小原地区での暮らしの魅力や特徴をお伝えすること等を目的に、通信誌「おばらのじかん」を発行されています。小原地区に興味を持つ地域外の方との繋がりを作るほか、**小原地区を出られた方とも繋がり続ける“ツール”**となっているようです。



4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

<6> フィールドワーク (7月 根羽村 森林の活用、村民活動拠点の視察)

根羽村で、森林活用の状態（Jクレジットの活用を行っている森林、コウヨウザンの植栽箇所）と、様々な交流活動（山村留学で作成したウッドデッキ、新たにオープンした村民活動拠点施設）を見学させていただきました。

○ Jクレジット対象林の視察

・温室効果ガスの吸収量をクレジット化して販売している森林を見学しました。対象森林は7haで、33.25トンのCO₂を吸収しています。山を手放したい人も多い中、**材を出す以外の収入源**となるため、村民にもメリットがあるようです。



Jクレジット対象林視察風景



里山展望デッキ



くりや

○ 里山展望デッキ、村民活動拠点「くりや」

・山村留学のご家族と根羽村森林組合が共働で作成したウッドデッキを見学しました。参加された方からは、自然の中で**五感を使って体験する場が大切**だという気づきがあった、と伺いました。
・村民交流拠点「くりや」(2021年オープン)を見学しました。テレワーク設備、シェアキッチンなどが設備され、**交流や活動拠点として機能**しています。

○ コウヨウザン植栽地の視察

・2年前に皆伐し、早生樹であるコウヨウザンを植栽した箇所を見学しました。**獣害が大きな課題となっており、再造林が非常に難しい**状況です。単木防護柵による獣害対策ではすべてシカに食害されたため、カプサイシンの散布、周囲防護柵の設置、植栽地パトロールなど各種対策の実施を検討しています。



コウヨウザン植栽箇所

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -2 山部会

<6> フィールドワーク（9月 恵那市 養蜂場の見学）

恵那市に移住され、養蜂農家をされている上矢作養蜂場の加地様に、移住でのご経験や、地域交流の手段としての二ホンミツバチの養蜂について伺いさせていただきました。

○ 移住についてのお話し

・加地様が実際に移住をされた経緯と、地域に溶け込むまでのお話を、地元の方々とリフォームされた「あんきな家」で伺いました。

当初、地元の方から遠目で見られている気配があったが、地元の活動にも積極的に参加するなど親交を深め、**養蜂を通じて地域に溶け込んだ**そうです。



あんきな家の様子



二ホンミツバチの巣箱



はたらく二ホンミツバチ

○ 養蜂（二ホンミツバチ）の様子

・加地様が管理されているミツバチの巣箱を見学させていただきました。庭先に4つの巣箱を設置されており、見学した際も巣箱周辺はミツバチが飛び交っていました。

二ホンミツバチの蜜は“百花蜜”といわれ、ひと瓶数千円の値段が付くこともあり、**地域の特産品**になる可能性もあります。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -3 川部会

令和5年・6年の活動目標

- 流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。

テーマ別の活動目標

①河道に関する課題（本川・支川）

- 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。

②流域に関する課題

- かわまちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有いただく。
- 流域の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。

③交流・共有に関する課題

- 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携を深める。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -3 川部会

<1> 今年度の活動実施状況と今後の予定

活動実施状況（参加者数）		日時	場所
6月	第62回W G（23名）	6月20日（火）	・ 豊田市崇化館交流館
8月	第63回W G（15名）	8月22日（火）	・ 豊田市崇化館交流館

今後の活動予定		日時（暫定）	場所
R5年 12月活動	第64回W G（年度まとめ）	12月	未定
R6年 6月活動	第65回W G	6月	未定
8月活動	第66回W G	8月	未定
10月活動	川部会まとめの会	10月	未定

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -3 川部会

<2> テーマ別の活動目標に対する活動計画について (テーマ①河道、②流域、③交流・共有)

○前述したテーマ別の活動目標に対し、目標達成に向けた活動計画を策定していくため、3つのテーマに関する課題、アイデア、提案等の意見を付箋紙に記し、出てきた意見についてカテゴリー分けを行った。これらのカテゴリーを踏まえ、今後の活動計画や方針、課題等について意見交換を行った。

【意見交換の内容を一部紹介】

- ・治水・利水・環境のバランスについて、今まで土砂が一つの鍵になるというのが共通認識であったが、今後は流域治水に合わせて考えていくことになると思う。
- ・FWを川部会の活動として位置付けるという意向がはっきりでている。
- ・生きものの棲みやすい川づくりという当初からの目標は継続していくことでよいと思う。
- ・矢作川流域圏懇談会で話し合ったことを具体化していく経路を考える必要がある。
- ・情報を集約し、形としてアウトプットしていくことを企画しなければいけないと思う。
- ・これからは流域治水ということで、流域に住んでいる方々に「川をどうしていきたいか」等の視点を投げかけていくことも役割となってくるのかと思う。



みなさんが出したアイデアを確認・整理



アイデアのとりまとめの様子



会議室での意見交換の様子

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -3 川部会

＜3＞昨年度の矢作川関係卒業研究の紹介について（テーマ①河道に関する課題（本川・支川））

○内田座長の研究室（愛知工業大学土木工学科）の卒業研究から、矢作川の生物に関する研究内容を5つ紹介いただき意見交換を行った。

【卒業研究テーマ】

- ・矢作川水系におけるカワヒバリガイの分布
- ・矢作川の瀬における底生動物の広域定点調査
- ・矢作川時瀬における置土実験が造網性トビケラ類へ与えた影響
- ・矢作川水系におけるコナガカワゲラ属の調査
- ・矢作川水系におけるヒメドロムシ科の生息状況



卒業研究の紹介の様子

【意見交換の内容を一部紹介】

- ・矢作川では、河床の攪乱不足により様々な生物に影響がでていることがわかっている。ダム湖内での砂利採取や砂防事業などが河床の攪乱不足の要因となっていると考えられる。
- ・アユの不漁には、カワシオグサやコケ植物、オオカナダモの繁茂が関係している。そして、これらの植物に伴って、トビケラや外来生物のカワヒバリガイなどが沢山生息するようになり、より一層、河床の攪乱不足になっている。
- ・造網性トビケラ類は、河床の攪乱が増えると減る。一方で、川底に潜って生息するコナガカワゲラ属やヒメドロムシ科は攪乱が増えると増えることがわかった。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -4 海部会

令和5年・6年の活動目標

- 「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

テーマ別の活動目標

① 豊かな海の再生に向けた取り組み

- 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過観察状況の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。

② 海と人との絆再生

- 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。
- 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。

③ ごみの問題

- 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。

④ 土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -4 海部会

<1> 今年度の活動実施状況と今後の予定

活動実施状況（参加者数）		日時	場所
6月	第52回W G・現地視察 (19名)	6月5日（月）	・豊川自然再生事業 ・豊橋市役所

今後の活動予定		日時（暫定）	場所
R5年 12月活動	第53回W G	12月	未定
R6年 1月活動	第54回W G（年度まとめ）	1月	未定
6月活動	第55回W G	6月	未定
8月活動	第56回W G	8月	未定
10月活動	海部会まとめの会	10月	未定

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -4 海部会

<2> 豊川自然再生について (テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み)

- 令和4年度に矢作川自然再生事業の一環でもある干潟造成箇所やヨシ原再生箇所の見学を実施した。
- 第52回海部会（令和5年6月5日）にて、豊川自然再生事業の干潟造成箇所やヨシ原再生箇所の現地視察を行い、他流域での取り組みについて知見を広げるとともに会議室にて意見交換・情報共有を実施した。

【意見交換の内容を一部紹介】

- ・豊川河口は、伊勢・三河湾の重要な場所となっており、河口域に干潟を造成することは、稚貝の生育の場を広げるということで非常に意味がある。
- ・三河湾は栄養塩不足になっている。栄養塩管理と干潟の造成・保全をハイブリッドで進めていく必要がある。



豊川河口付近の清須河川敷公園にて集合



豊川河口の干潟・ヨシ原の説明の様子



会議室での意見交換の様子

4. 各部会の当初目標と活動実績 (1) -4 海部会

<3> 流域圏担い手づくり事例集（海版）について（テーマ②海と人との絆再生・③ごみの問題）

○山部会で作成している流域圏担い手づくり事例集を、今年度は、海部会とコラボし三河湾だけでなく伊勢湾を含むより広い範囲を対象に活動されている方を取材し、海の現状や課題等を本事例集で整理・発信していきたいとの意見が挙がった。

<4> ダム堆砂分級工法について（テーマ④土砂の問題）

○ダム堆砂分級工法の現状や今後の展望について、青木座長より情報提供をいただいた。

○矢作ダムでの土砂分級実験の見学会（主催：一般社団法人 ダム水源地土砂対策技術研究会）が11月14日（火）・15日（水）に開催される。後日、WGにおいて見学会の報告および意見交換会の場を作る予定である。

【ダム堆砂分級工法について（参考）】

- ・既設ダムの機能を半永久的に維持していくための対策として、ダム堆砂の掘削や浚渫等が最も一般的な堆砂対策である。
- ・これらのダム堆砂の品質を高め、有効利用先の拡大や下流還元量を増加させることを目的に、ダム堆砂の土砂分級技術の導入を検討している。
- ・海の浚渫工事や保安工事をやっている会社が協力して土砂の処理に関する技術開発を進めている。
- ・技術開発の一つとして、細粒を取り除く方法を開発しており、それをダム砂に活用することを試行している。それにプラスして、土砂を分級する技術を開発しており、矢作ダムの砂を使って分級システムの試行を行っている。



ダム堆砂分級工法のパンフレット（表紙）

5. 第13回の全体会議に向けての展望 (1) -1 市民部会

令和5年・6年の活動目標

「流域連携」をテーマに以下の3つの活動目標を設定

活動目標

①流域全体に関わる課題をテーマとして設定し、公開講座を実施する。

- 2月の開催に向けて、詳細なプログラムの検討、講師との調整、広報の方法などについて意見交換を行う。

②地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。

- 9月に実施したバスツアーの結果を整理し、次年度以降の実施の検討と、実施する場合の内容について、アンケート結果・地域部会の意向などを踏まえて意見交換を行う。

③農業従事者や大学関係者など、新たなつながりを広げる。

- 公開講座については、大学生や一般市民に向けた情報発信について意見交換を行う。
- 流域圏懇談会の活動と関連する団体・個人への訪問・招待やイベント参加などを引き続き行っていく。

5. 第13回の全体会議に向けての展望 (1) -2 山部会

令和5年・6年の活動目標

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマ（山村ミーティングと森づくりガイドラインは協働）を軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

テーマ別の活動目標

①流域圏担い手づくり事例集

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅴ」を刊行する。
- ・都市域の豊かさは流域圏の自然により成り立っているとの観点から、山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目し、都市域の住民を巻き込んだ流域再生を進めるための事例集づくりを行う。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
- ・事例集交流会を開催する。

5. 第13回の全体会議に向けての展望 (1) -2 山部会

②山村ミーティング

- ・山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する（担い手の創出）。
- ・3年前までの矢作川感謝祭では、流域の森林組合員の参加が定着傾向にあった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年度はイベント自体が中止となった。今後は、このイベントが林業関係者の交流の場として、どのような役割を果たすのか、開催を支援しながら再検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

- ・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

②山村ミーティングと③森づくりガイドラインの協働（矢作川流域山づくりガイドブック策定）

- ・流域4森林組合の現場森林技能者育成と現行施業ガイドラインについてのヒヤリングを進める
- ・豊田森林組合で取り組まれている現場森林技能者育成トレーナー養成の実際の研修を4組合の現場技能者＋事務方で共有する。
- ・ヒヤリング結果と豊田森組トレーナー研修の感想から、流域全体の人材育成と山づくりガイドブック策定について検討する。

④木づかいガイドライン (1)

【木づかいガイドラインの作成】

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。

【「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の製作とその理念と製作方法を普及】

- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。

④木づかいガイドライン (2)

【木づかいと森林アクティブ系・癒し系プログラムによる市民創造型プロジェクトの実施】

- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって、身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。
- ・神奈川県山北町において開催された「大人の木育」の講師を務めた流域連携から、現在南都留森林組合との連携事業がスタートした。今後、道志村のキャンプ施設を対象とした森林づくりワーク及び木のアイテムによるプレイスメイキングを進めていく。

【矢作川流域の活動拠点の木質化の事例収集と支援】

- ・学童保育、森の幼稚園、里山等で森づくりワークを進めていくにあたり、それらの活動拠点施設及びトイレが必要である。愛知県の学童施設に愛知県産材のスギ材が「板倉構法」として使われており、こうした事例を参考に矢作川流域材を活動拠点及びトイレ等の施設に活用していく。

5. 第13回の全体会議に向けての展望 (1) -3 川部会

令和5年・6年の活動目標

- 流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。

テーマ別の活動目標

①河道に関する課題（本川・支川）

- 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。

②流域に関する課題

- かわまちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有いただく。
- 流域の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。

③交流・共有に関する課題

- 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携を深める。

5. 第13回の全体会議に向けての展望 (1) -4 海部会

令和5年・6年の活動目標

- 「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

テーマ別の活動目標

①豊かな海の再生に向けた取り組み

- 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過観察状況の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。

②海と人との絆再生

- 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく（事例集の作成）。
- 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。

③ごみの問題

- 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う（事例集の作成）。

④土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う（ダム堆砂分級工法）。

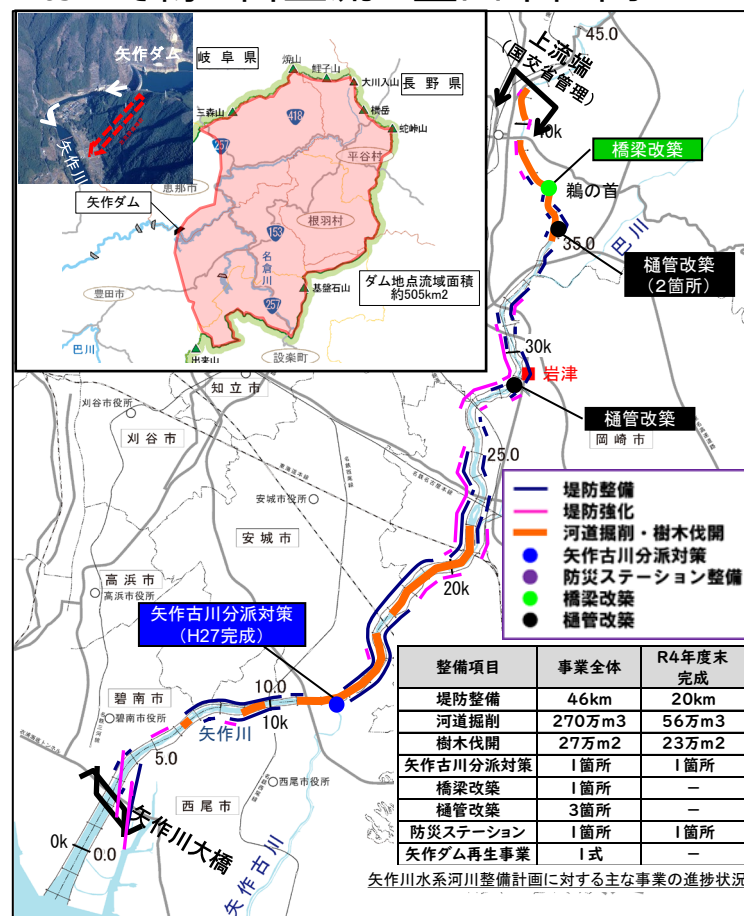
6. その他

<1> 河川整備計画との関わりに関する今後のとりまとめについて

○河川整備計画の関わりについて

矢作川水系河川整備計画は、平成12年9月東海（恵南）豪雨規模の洪水を安全に流下させるため、平成21年（2009）に策定し、直轄区間において鵜の首上流の豊田市区間の河道掘削、中下流部の堤防整備・堤防強化、河道掘削、樹木伐開などの河川整備の効果を発現させるために実施している。

しかしながら、直轄区間の整備だけでは対応しきれない矢作川流域としての管理においても関係者と協働してすすめることで、流域全体の治水効果を向上させるため、矢作川流域圏懇談会を通じて、山・川・海の流域の関係者と情報交換・課題の共有をしている。



河川整備計画に基づく整備位置図

6. その他

< 1 > 河川整備計画との関わりに関する今後のとりまとめについて

○流域圏懇談会の活動の振り返り

河川整備計画の策定後に矢作川流域圏懇談会は平成22年（2010）に発足している。発足後から活動の振り返りを行い、これまでの活動の整理を行うとともに、今後の活動方針の確認・見直しを行う。

それに先立ち、令和6年11月の全体会議時に「14年間の振り返り（各部会における直接効果・間接効果）」を報告できるよう各部会で意見交換の場を創出する。

【矢作川河川整備計画 より抜粋】

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第3節 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けた取り組み

矢作川流域では、過去から住民が一体となって流域圏という考え方のもと様々な諸課題に取り組んできた歴史がある。

今後、矢作川における治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理等の諸課題を解決し整備計画の目標を達成していくためにも“流域は一つ、運命共同体”という共通認識を持ち、調和のとれた流域圏全体の持続的発展を目指す必要がある。

このためには、学識者や森林組合、漁業協同組合、土地改良区、企業、市民団体、NPO等の各種団体、国、県、市町村の関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組む必要がある。

6. その他

関係部会 凡例
市民部会 山部会 川部会 海部会 ミライ会議

<2> 矢作川流域圏の間接効果（2023年のみ一部紹介）

流域担い手づくり事例の
作成及び交流会の開催

2023.5.19

(山)

事例集交流会での取材者同士の新たな繋がり
(学童保育木造化と都市の木質化プロジェクト)



山部会WG・FWへの
大学生（信州大学）の参加

2023.5.19-20、 7.28-29

(山)

根羽村森林組合など地元の方々の協力のもと
大学生が根羽村・林業のミライ合宿を企画・開催
(2023.9.1-2 岐阜大学や人間環境大学の学生（14名）参加)



公開講座に向けて農業
に関する勉強会の実施

2023.5.22

(市民)

オーガニック給食の推進に関する取り組みを
実施しているFood for Children愛知や安城
の関係者との新たな交流（2023.7.18）



バスツアーへの大学生の参加
(愛知工業大学・三重大学)

2023.9.13-14

バスツアーに参加した大学生が奈佐の浜プロジェクト
学生部会主催の答志島合宿（海岸清掃）に参加

(川・海)

(2023.10.7-8)



いい川・いい川づくり
ワークショップへの参加

2023.9.30-10.1

(市民・ミライ)

多摩川流域懇談会との交流
(2023.11.7-8多摩川源流ツアーに矢作川より5名参加)
2024年より本格的に交流していく予定



調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて

矢作川流域圏懇談会は、設立13年目となり、流域内外にその存在意義を伝えています。今年度は、山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアーを開催し、山・川・海が抱える課題について部会間での共通認識を図ることができました。また、次世代を担う大学生を巻き込みつつ、人と人とが繋がることで、小さな輪が大きな輪になり、新たな交流が生まれています。

引き続き、この流域圏懇談会で情報を共有し、また、多くの人々への情報発信ができるよう、ご支援をお願い致します。

